Restar 石英 水中殺菌灯 取扱説明書

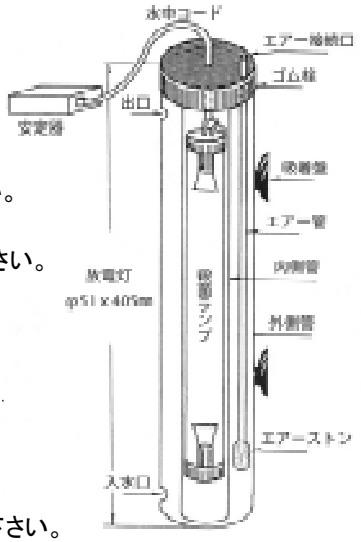
20150615

製品を安全にお使い頂くために本取扱説明書をご覧になり、ご理解頂いてからお使い下さい。誤った使用は人・財物等の事故につながる危険がございます。この説明書は保存し必要な時ご覧下さい。

☆水中蛍光灯は『放電灯』と『安定器』の２つで構成されております。
　必ず双方を組み合わせてご使用下さい。
☆『放電灯』は、外側管・内側管・殺菌ランプで構成されております。

⚠ 警告：注意　感電、火災、漏電、損傷等の事故を避けるためにお守り下さい。

- ●『放電灯』の外側管、内側管、及び殺菌ランプは共にガラス製です。衝撃に弱いので、物をぶつけたり落としたりしますと破損することがございます。
- ●『放電灯』内のランプ交換、及び管部を清掃する場合は、必ず電源を切ってからおこなって下さい。
- ●『放電灯』内のランプ交換は、絶対に濡れた手でおこなわないで下さい。
- ●『放電灯』は水中でご使用下さい。空気中で点灯し、布や紙などで覆ったり、燃えやすい物を近づけたりしないで下さい。
- ●『放電灯』内ランプの容量（ワット数）に合った安定器をご使用ください。
- ●『放電灯』が誤って水中で破損した場合は、必ず電源を切ってから取り出して下さい。ガラス製品ですのでケガのないように充分注意して下さい。（一度内側管の中に入水したものは使用できません。）
- ●『安定器』は屋内専用です。屋外での使用、雨や雪のかかる恐れのある場所、又、溶室など湿気の多い所では使用できません。
- ●『安定器』を布や紙で包んだり、箱に入れて密封したりしないで下さい。通風の良い場所に設置して下さい。
- ●『放電灯』・『安定器』のコードを釘等に巻きつけ、ぶら下げたりして使用しないで下さい。
- ●『放電灯』・『安定器』のプラグに水や塩分がかからないようにして下さい。又、水滴がコードを伝わってプラグやコンセントを濡らさないように注意して下さい。（定期的に清掃して下さい。）
- ●『放電灯』・『安定器』のプラグ、及び『安定器』にホコリが付着しないように定期的に清掃して下さい。
- ● 電源プラグの差し抜きは、プラグ部を持っておこなって下さい。
- ● 傷んだ電源コード、電源プラグは使用しないで下さい。
- ●『放電灯』・『安定器』は子供の手が届かない所へ設置して下さい。
- ●『放電灯』・『安定器』は改造して使用しないで下さい。



- ○『放電灯』の水の出口を水面近くに、水の入口を底方向にセットして下さい。
- ○『放電灯』の外側管を外したまま、点灯中のランプを直接肉眼で絶対に見ないで下さい。（目の痛みや視力障害の原因になります。）
- ○『放電灯』の外側管を外したまま点灯し、紫外線（殺菌線）を皮膚に直接当てないで下さい。（皮膚の炎症を起こす原因になります。）

◎『放電灯』内の殺菌ランプの交換は販売店にご依頼下さい。
ご自分で交換される場合は、下記の手順でおこなって下さい。

a. エアーポンプからきている接続チューブを外して下さい。
b. 安定器の電源スイッチを切って下さい。
c. 安定器と放電灯の差し込みプラグを外して下さい。
d. コードが通っているゴム栓のすそを上げ外側管を外し、中の内側管を取り出して下さい。
e. 再度ゴム栓のすそを上げ、ゴム栓と内側管それぞれの接合部分を手で握り、殺菌ランプを抜き出して下さい。（内側管・殺菌ランプは長く割れやすいものですので、周囲に充分注意しておこなって下さい。）
f. 殺菌ランプは左右端子のソケット各2ヶ所を外し、交換して下さい。（新しいランプの端子は確実に接続させて下さい。）
g. 交換が終了しましたら各配線部分を点検の上、殺菌ランプを内側管に戻し、ゴム栓は緩みのないように内側管へ押し込んで下さい。その後、元のように外側管へ戻して下さい。（殺菌ランプ交換後の点灯確認は、必ず外側管へ戻してからおこなって下さい。）

※ご自身で交換された場合の事故や破損に関しての責任は負いかねます。

※ 吸盤、ゴム栓等は使用環境によって劣化が激しくなる場合がございます。
　2週間に一度は点検し、ひび割れや腐食を発見された場合は即座にお取り替え下さい。
※ 漏電ブレーカーを併せてご使用いただきますとより安全です。
※ 製品は改良のため予告なく変更することがございます。
　又、最新の取扱説明書は弊社HPをご覧ください。
※ 不具合・交換品につきましては、お買い上げの販売店にお問い合わせ下さい。
※ 本製品は、日本国内のみで使用可能です。

株式会社 リスター
〒232-0064 神奈川県横浜市南区別所１－５－１
http://www.yokohama-restar.com/